



kunlapopolo …人々の中で人々と共に…

劇団 新制作座 創立75周年

The letter of Shinseisakuza

# 新制作座だより

<http://www.shinseisakuza.com>

75th anniversary



1973年 創立者3人揃って劇団本部の野外ステージにて 左から  
草村公宣(くさむらこうせん)、真山美保(まやまみほ)、槙村浩吉(まきむらこうきち)



2026 SPRING vol.26

立春によせて



美保先生愛用の帯をしめて新年を祝いました

皆様には、穏やかな立春をお迎えのじゅうじゅうお喜び申し上げます。  
昨年も多くのご友情と応援を頂きましたこと心より御礼申し上げます。

昨年同様、年賀状は失礼させて頂き七十五周

年の年のご報告と今年の抱負など申し上げとうございます。

昨年の大きな仕事は、令和七年度舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）の採択を受け、福島県・群馬県・栃木県・埼玉県の小、中学校を『泥かぶら』をもって回ったことです。ことに久しぶりに小学生の子どもたちの前で上演できたことは、私たちの胸に新たな驚きと子どもたちの持つ感性と力を感動と共に焼き付ける事象であります。観劇してくれた子どもたちの感想文がたくさん劇団に送られてきた、その幾つかをこの紙面にご紹介いたします。（5ページ参照）

七十五周年の記念公演は、諸事情により出来ませんでしたが、真山青果・美保演劇研究会の名前でYouTubeチャンネルを立ち上げ、美保先生ご自身の朗読、劇団員が読む青果先生の作品、美保先生のエッセイなどアップいたします。チャンネル登録よろしくお願ひいたします。

今年も、新制作座は、「楽天主義」を武器として、演劇芸術の力を信じ、美保先生の遺言「みんな仲良くね。」を守り進んでまいります。

皆様のご家族にとって素晴らしい年となりますようにお祈り申し上げます。

令和八年二月

劇団新制作座一同

# 新制作座 創立75周年 あの日この日



懐かしく切ない…

新制作座の青春の日々を書くことに  
しましたが、沢山ありすぎて皆悩み苦しみ  
ました。笑ってお読みください！

## 愛とは厳しいものなり

眞山蘭里

舞台俳優・舞踊家（藤間門流）



先般、眞山青果・美保

演劇研究会のYouTubeチャン

ネルで眞山美保先生の『仙台その人』を読んだ。

美保先生の子どもの時の感性は鋭く、作家の文章とはじう云うものだと感服するばかりの一文であった。

父であり師であった青果から受けた深い愛と教育の一場面を見事に切り取り、青果自身を、東北人の持つ心を読者の眼前に鮮やかに魅らさせてている。

前置きが長くなつたが、0歳からの弟子という珍しい体験をして来た私も、文章の拙さを憚らず、美保

先生から受けた愛情と教える数々を書き残すべき歳となつたと考え、この新制作座七十五周年を記念する新制作座だよりにペンを取つた。時は一九七二年七月、新制作座フェスティバル公演班の一員として十三歳の私はサンパウロ近郊のカンピーナス空港に降り立つた。初の外国である。まず広い草原のような空港と、タラップを降りた時の匂いの違いが印象に残つた。それから二か月の間に二十五都市四十回の公演の幕開けに『操り三番叟』を踊つた。

サンパウロのホテルダヌービオを拠点に各地を回つた。長い公演ツアーや間には、休日もありブラジルの国技、フットボーラ（サッカー）の試合を見に行つた。当時サッカーの



1965年 インドネシア語でスピーチする5歳の蘭里くんと眞山美保

神様ペレが現役でサントスチームの所属、サンパウロのパウメーラスとの試合を観戦した。試合は、三人のマークを付けられたペレは何も出来ず、パウメーラスの勝利で試合終了。

日系人で劇団の友人の子息ジョン君（十四歳）とご家族に伴われてスタジアムを出た。道々の車という車がクラクションを鳴らし、窓から半身乗り出して、勝つたチームは

フラッグを打ち振り、負けた側もフラッグを心なしか悲しそうに振つて、勝ち組の車に何事か叫びかける。勝ち組応援団はクラクションで応

する、というお祭り騒ぎ。ジョン君とご家族はパウメーラスの覇王、御多分に漏れず勝利の旗を振つてい

るのだった。

そんな興奮の経験をした数日後、サンントス公演の開幕前、舞台の裏の準備も終わり皆ほつと雑談タイム。興奮冷めやらぬ私の「サンントスが負けてサンパウロのパウメーラスが勝つた！」

通りかかった美保先生は、「何を言つてゐるの？、ここはどこなの？サンントスの方たちが聞いたらどう思うか考えたことが有るの！」と一

喝。自分の浮ついた心、観光気分、休みボケ等々、今になつても自分自身の軽薄で思い遣りのない思考、想像力の欠如を恥じている。

美保先生からの愛情は、数限りなく頂いたが、自分に焼き餃を当てる事もその教える一つだったと考えている。



1972年 詩劇『人間万歳』ブラジル親善公演のひとこまクリティバの市長と眞山美保

## 山の上層火事顛末記

込山虔一郎

劇団4期生 舞台監督・歌手（テナーノ）

一九六五年三月十二日、忘れもしない。

新制作座山の上の家が全焼した日である。私達はこの二年前の一九六三年に杉並区井荻にあつた百坪ほどの稽古場から、此処八王子の一





新制作座文化センター建設のための鍛入れ式 真山美保

万坪の敷地に、新しく劇場、本部事務所、食堂、それに敷地全体を馬蹄形に取り囲む丘陵の頂上に、山の上と称する皆の集まるサロンと眞山・楳村先生の住居等を建設して、意気揚々引っ越して来たばかりであつた。

この一九六三年という年は画期的な年で、年頭から四カ月に渡るインドネシア公演を大成功裏に果たしていた。翌六四年は東京五輪の年で、日本中がお祭り騒ぎだった。劇団のインドネシア帰国報告公演も連日大盛況であつた。

いつしか劇団員も百八十名に増えている。だが、好事魔多し、ここに落し穴が待つていた。あろうことか

劇団のアンサンブルにセクトが生まっていた。所謂政治の季節の幕開けであった。半年に及ぶ悪戦苦闘の末、年の暮に半数の九十名が劇団を去つて行った。「寒風下の師走に大量の首切り…」等とマスコミ各紙ござつて大々的に報じ立てた。

しかし、我が劇団の先輩達は何事も無かった様に仕事に励んで居られた。

楳村先生、草村先生は泥かぶらの舞台へ、眞山先生はスタッフを集めて新しいフェスティバルの準備を始められた。実は、去つていた者たちの大部分はフェスティバル班所属であった。従つて劇団は新しいフェスティバルを創造しなければならなかつた。

一人、又一人、とインドネシア公演のメンバーを中心に山の上に集められた。遂に山の上で合宿稽古が始まつた。

コーラス四声部各三名づつ、楽器二名を加えて十四名、『十四人の愉快な仲間』と新しい作品のタイトルが決まった。朝十時頃から夜二、三時頃まで、厳しくも楽しい稽古が続いてどんどんと新しいレパートリーが生まれていった。

そして、その日（三月十二日）が来た。前日の夜、泥かぶら班が公演を終えて久し振りに帰つて来たので皆で迎え、夜を撤して語り、歌い、新しいレパートリーも披露し、心尽くしのござつて大々的に報じ立てた。

彼るやすぐに熟睡してしまつた皆は朝八時頃だったろうか、布団を被るやすぐに熟睡してしまつた皆は朝八時頃だったろうか、布団を

「火事だ！ みんな起きろ！」

楳村先生の悲痛な叫び声で飛び起きた。その時は既にパチパチと炎上する音と匂いが充満していた。以下、火事の記述は省く。兎に角私は十四人は醜態の限りを尽くした。火事場の馬鹿力で楳村先生のお部屋から、和箪笥六竿は運び出した。

それ以外は、折り悪しく吹き荒れる春一番に煽られて、跡形も残らなかつた。グランドピアノの残骸には涙が出た。

夕方になり、本館の和室に皆集まつた。突如、楳村先生が満面の笑みを浮かべながら「みんな、今日は杉原君の誕生日だ。これから誕生日祝いをやるぞ！」と言われた。みんなの驚く顔に更に続けられた。「いいか、ものは焼けても買うこと出来る。でも人はそうはいかない

一週間ほど過ぎた頃だった、稽古場に突如、下倉楽器店からアコーディオン二台とコントラバスが届いた。新品で明らかに以前使っていたものより良い品に思えた。茫然としている私達に草村先生が「ピアノは山の上が再建する迄待つてくれ」と言わされた。私達は和室の脣に平伏した。後に会計に聞いた話では、あの楽器は草村先生がご自分の貯金を叩いて購入されたという事を知つた。公私混淆というの



1963年 インドネシア公演 スカルノ大統領をインドネシアの民族衣装で迎える眞山美保と草村公宣

私用に公金を使うものだが新制作座ではその逆なのだと知った。

眞山先生の悲しみは深かった。何よりも大事な第九作目の戯曲『怒りの中を突っ走れ』の未完原稿が燃えてしまつたことである。その悲しみは端にいるのも辛く、みんなで何度も焼け跡をほじつた。それは気休めに過ぎないということは先生も解っている。槙村先生は芸術家の鬱病<sup>うつ病</sup>を心配されていた。

それにもう一つ、眞山先生は、公演班が帰つて来たら、全員にプレゼントしようともう一人一人に春のスイ

ツやセーターを選び買い集められていた。三月になりもうすぐ皆が帰つてくるからと、下の本館から眞山先生のクローゼットまでわざわざ運び込んだ矢先の火事、全焼だつた。悔やんでも悔やみきれない思いは痛い程わかる。

実は私事になるが、以前経営部の会議に参加したことがあった。会議の後、経営部にプレゼントが出た。その時男性が居るのに気が付かれて、私にも何かと選んで下さつた。それは岩波文庫の万葉集上下二巻であった。これは先生の愛読されて

いたもので、先生の心に留まつた歌

に自らの朱印が書き込まれてある貴重な宝物であった。私は、先生の心の痛みが少しでも癒されるならばと思い、この宝物をお返しした。先生は「あなた、いいの?」と、言わ�パラリと頁(ページ)をめぐり、朱印の歌をみつけ「あ、これは…」と、かすかに微笑まれた。私の体からスーッと力が抜けていくのを感じた。いや体からではない心からだと思いつつ、固い心が柔らかく溶けてゆくのだった。

## アコーディオンと私

原 泰賢

音楽監督/アコーディオン奏者/書道家



一 九六一年八月二六

日、東京の日比谷野外音楽堂で開催された、新制作座の『民族の夏の祭典』は、七千人の観客で立錐の余地もなく大盛況の舞台であつた。この演劇の枠を超えた一大ペー

ジメントは、私に新制作座に飛び込む決定的な感動を焼き付けた。当

時入団希望者が多く、私は考えた末にこの芸術集団に必要とされるのはアコーディオン奏者だと思

い、この道を選んだ。

それからの長い年月、ありがたいことに私は眞山美保の歌と演劇が融合した新たな舞台、『新制作座フェスティバル』の創造と誕生の瞬間に立ち会い、中国・ブラジルの海外公演に参加、ピアノの伴奏と劇団のオリジナル曲の作曲も手掛けた。

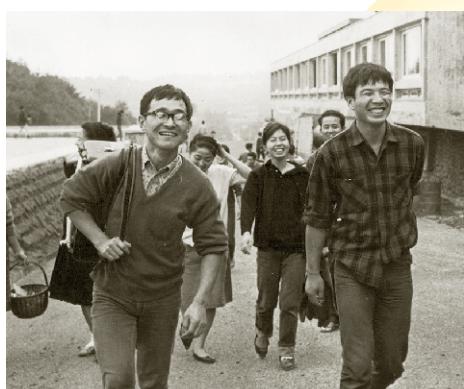
アコーディオンの優れている点は大衆の中に芸術を直に届けることが出来る、という事、美保先生はアコーディオンという楽器を愛し、私も充実した日々が続いた。

六十歳に手が届く年齢になつたある日、私自身の脆弱さの為に、正々堂々と退団届けを出すことなく飛び出してしまった。生活の為に新聞販売店に就職することにした。長い間、劇団の中で育まれ鍛えられた私には、販売店の人間関係の煩わしさもさほど感じることはなかった。販売店の社長に見込まれ、頼りにされながら月日は流れていった。

そんなある日、配達中のバイクで

横転、私は瞬時に指を見た、「ああ！アコーディオンが弾けなくなる。」

その後の事は省くが、私は皆に支えられ劇団に戻ることになった。美



八王子の自然の中に芸術の村が誕生した。左、アコーディオンをかかえる青年 原 泰賢 右、関口佳男

保先生に久し振りにお会いした時、「原君が帰ってきたから、新しいフェスティバルを創りましょうね。」と、言われた。不義理をした私を一言も咎めず愛情に満ちた言葉に、新制作座の芸術集団の眞髓にふれ泣いた。私は役に立つことが出来る！再び立ち上がりアコーディオンを抱いて、一九八六年、中国京劇院・眞山青果原作・眞山美保演出『坂本龍馬』北京・大連・上海・ハルビン公演。一九九六年、『新制作座フェスティバル』上海・南京・北京公演に参加、忘れがたい友情につつまれ日々の架け橋になることが出来た。

今年八九歳を迎えて、今は新制作座の歌を未来に残したい、そんな思いで合唱曲集の出版を夢見ている。

# 劇団新制作座のみなさんへ すてきなおはなしを見せてくれて ありがとうございました！

✿一番後ろの方にいたわたし  
でもよく聞こえました。応援し  
ています。がんばってください。  
Rさん(中学2年)



Hさん作(小学1年)

✿予想以上に面白かったです。  
泥かぶらがどんどんきれいにな  
っていき最終的には人さらいさえ  
改心させていたからです。  
Mさん(小学6年)

✿ぼくもつらい思いをしたこと  
があるけれど、ぼくは石を投げ  
たり暴力したりしてしまいました。  
ぼくも見ならって少しがま  
んしてみようと思いました。  
Nさん(小学6年)

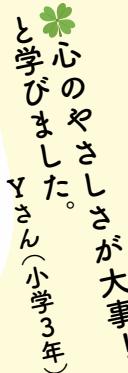
✿赤ちゃんも大人も悪とも  
腹の底から笑わせる泥かぶら  
にすごいなあと思いました。  
Aさん(小学6年)

✿人を信じたいと思った。また会いたい！！  
Cさん(中学3年)



Sさん作(小学1年)

✿またこんどもみたいです。  
心のやさしさが大事！  
Yさん(小学3年)



Hさん(小学1年)

✿声に情熱を  
感じました。  
Iさん(小学6年)



Eさん作(小学2年)

✿花いっぱいの泥かぶらの  
シーンがとてもすてきでした。  
Mさん(小学6年)



Rさん作(中学2年)

✿みんなで踊ったダンス  
てっきりこぶが心に残り  
ました。たのしかった！  
Iさん(小学2年)

✿泥かぶらがおじさんのために  
岩をのぼったところが好きです。  
そこで初めての友達ができてよ  
かったなという気持になりました。  
Nさん(小学6年)

✿泥かぶらもおじさんもやさ  
しくなってよかったです。  
Eさん(小学3年)

✿泥かぶらはゆうきが  
あるなと思いました。  
Nさん(小学2年)

✿おじいさんが三つのやくそ  
くがやつと分った場面などが  
とても好きになりました。  
Kさん(小学6年)

✿いっしょにけんめいげきを  
してくれてありがとうございました。  
Hさん(小学4年)



Yさん作(小学1年)

## 入団一年目の私

大石 晃子  
舞台俳優、園芸



昭和三八年、私は新制作座に高校卒業と同時に入団した。

きっかけは、中学の時、浜松で『泥かぶら』を観て涙が止まらなくなっこことだった。高校二年生になって、当時の新制作座の本部井荻の稽古場を訪ねた。入団試験を受けたが、その日は、劇団の人、「卒業してからいらっしゃいね」と、優しく言われた。

入団してすぐ、初めて研究費を頂いた。新制作座は創立当初からお給料制だった。井荻から新宿まで電車で一五分、私は初めてパーマをかけ、新宿中を一枚の洋服を買うたために歩き回った。

五月、インドネシアから美保先生をはじめとする劇団員たちが三か月半に及ぶ滞在を終え帰国した。すぐに産経ホールのインドネシア帰国報告公演の稽古が始まった。美保先生を中心に一八〇名の若い俳優達の熱気にあふれていた。当時のインドネシアは、オランダから

国だった。私は客席で、笑い泣き感動して踊りあがって観ていた。十九歳だった。

八月、完成した八王子の新しい劇団本部、財団法人新制作座文化センターに移ることになった。下宿の荷物をまとめながら、これからは大きな声で歌うことが出来る! と、皆喜んだ。

落成式の野外ステージの舞台に「一年生も参加しなさい」と言われ、私は生まれて初めて人前で歌った。

あれから六十年の月日が流れた、私は今もここで生きている。食堂で働き、『泥かぶら』の稽古に参加、集う俳優達の部屋を整え、衣装の手入れをして、庭の花を育て、充実した人生を送っている。何より嬉しいのは、この年月を劇団と共に生き、多くの思い出と歴史を共有してきた先輩と後輩が側にいてくれることだ。そして、この劇団の本部が星槎高尾キャンパスになって十五年になった。高校生が今日も賑やかに何事か語り合い笑っている。『泥かぶら』の公演スタッフとして働く生徒もいる。若い日の感動がいかに大事かと思う今日この頃の私です。

## 人生を変えた一時間

山形 久人  
泥かぶら舞台監督、制作



新制作座に入団して

六十年、その間ブランクもありながら、今も劇団員でいる事に自分でも不思議に思う時がある。

芸術的素養もなく、才能もない私が何故芸術家の群れに飛び込んだか、その日がなければ、今も一ファンとして大阪の地で暮らしていた事と思う。

新制作座との出会いは、一九六三年「インドネシア帰国報告公演」大阪産経ホールの公演を観たことに始まります。



創立20周年記念パーティ(帝国ホテル孔雀の間)にて  
眞山美保

し工場で働く労働者でした。職場の先輩が新制作座大阪公演の入場券を獎めてくれ、何気に購入して観劇したのです。

公演日は私の二十歳の誕生日の前日、公演を観終わった後、暫く席を立ち上がる事が出来ませんでした。

その日から当時「新制作座を推し進める会」として大阪で活動していた仲間と出会い、その活動に生きる力を貢献していました。

それから四年間、会社の休みの度

に八王子の劇団に通い続け、様々な劇団行事にも参加、充電をして大阪に帰っていく、そんな日々が続いていました。

年越しを劇団で過ごし大阪に帰る前日、新制作座恒例の新年大麻雀大会に参加し、お礼と帰阪の挨拶をと思い、眞山先生の居室に行こうと階段を上がろうとした時、偶然階段の上から「山形君上がつてこない。」と思ひがけない一言。

それ迄機会あるごとに会ってはいましたが先生と二人きりで話す事など一度もなかつたので、何事: と思いながら先生のリビングに上がつて行きました。

そして「あなたに」と、とつておきのブランデーを出して乾杯をしてくれたのでした。

それからどれ位話をしたのでしょうか、突然「山形君、もう劇団にこない」と言われたその一言で私の人生は百八十度変わったのです。

劇団員になってからのエピソードは数限りなくありますが、先生と二人きりで過ごしたあの時間と言がなければ、今の私は此処には居なかつた事でしょう。

これからも自分の出来る事や出来湧く事に向き合つて行こうと思



Hさん作  
(小学1年)

## 2025年を振り返って 劇団の公演と イベントの報告

- ◆1月元旦 新制作座新年会 会場:星槎高尾キャンパス・食堂むさしの
- ◆2月15日 星槎国際八王子 演劇ゼミ『幸福の王子』成果発表会 会場:星槎高尾キャンパス・高尾ホール
- ◆2月27日 『泥かぶら』八王子市立陵南中学校 体育館公演 ◉東京都教育委員会「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」
- ◆2月28日 『泥かぶら』八王子市立横山中学校 体育館公演 ◉東京都教育委員会「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」
- ◆3月2/3日 ひな祭り 真山家明治雛公開 会場:星槎高尾キャンパス・3号館大広間
- ◆3月7日 『泥かぶら』八王子市立城山中学校公演 会場:星槎高尾キャンパス・高尾ホール ◉東京都教育委員会「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」
- ◆6月18日 『泥かぶら』太田市立葦川小学校 体育館公演 ◉文化庁・学校巡回公演
- ◆6月26日 『泥かぶら』星槎国際立川・八王子 芸術鑑賞会 会場:星槎高尾キャンパス・高尾ホール
- ◆10月7日 『泥かぶら』埼玉県入間郡三芳町立東中学校 体育館公演 ◉文化庁・学校巡回公演
- ◆10月8日 『泥かぶら』埼玉県入間郡三芳町立藤久保小学校 体育館公演 ◉文化庁・学校巡回公演
- ◆10月22日 『泥かぶら』真岡市立大内中央小学校 体育館公演 ◉文化庁・学校巡回公演
- ◆10月23日 『泥かぶら』須賀川市立大東小学校・大森小学校 体育館公演 ◉文化庁・学校巡回公演
- ◆10月29日 『泥かぶら』学校法人 郡山開成学園 第227回 芸術鑑賞講座 会場:郡山女子大学建学記念講堂大ホール
- ◆12月19日 2025年 新制作座クリスマスパーティ 会場:星槎高尾キャンパス・食堂むさしの 朗読劇『戦争をやめた人々』上演

木村 幸子  
舞台俳優、小道具制作



元々演劇と無縁な私でしたが、その出会いが新制作座に入団するきっかけになりました。

今 思う事は、よくぞ眞山先生の作品に思春期の頃、巡り合う事ができた、その偶然を奇跡と思わずにはいられません。

私は五歳で母を亡くし、二度目の母を受け入れることが出来ず悩む日々に、新制作座の舞台『青春』を高校一年の時に観ました。その主人公二人が困難を乗り越え皆に祝福されるエピローグで涙が止まらず、終演後わざわざ、舞台上に足が向いました。

新制作座に入つて一番びっくりしたのはディスカッションでした。眞山先生はいろいろな替え歌を創っていますが『旅姿三人男』の替え歌に、「新制作座の名物は愛と信頼とディスカッション」。又、『新制作座オラトリオ』という創作曲の冒頭には「新制作座ってどんなどこ、

五月は縁に囲まれてあなたの心が変わること」とあります。

新人の頃、先輩のディスカッションに参加し、眞山先生の厳しくも深い愛を感じて、その人が殻を破つて飛躍していく姿に感動しました。

そして私も山あり谷あり、ディスカッションの渦中の人となつた時、

最後に行き着く処は母との壁を乗り越えられない自分、変わることの出来ない自分と向き合う事に成るのでした。そしてとうとう耐え切れず、劇団を飛び出してしまいました。

そして十四年の月日、色々な人々と関わり合い、亡き二度目の母の心をやつと理解し、師の深い愛を改めて知る事と成ったのです。

人生の中でも無駄なことは何も無いと今思います。

劇団を離れて十年目、眞山先生が旅立たれ、劇団葬に参列したのち、『泥かぶら』の小道具製作を引き受け、一年後には舞台に復帰、梅吉・童の役を務めました。私の居場所はここだつたと!

できることなら生涯舞台に立てる私で在りたいと思います。

## Information

### 2026年『泥かぶら』公演・とイベント

- ◆2月14日 星槎国際八王子 成果発表会 演劇ゼミ『冥界の案内人』
- ◆2月27日~3月3日 ひな祭り 真山家明治雑公演
- ◆4月 星槎国際八王子・立川 新入生歓迎公演
- ◆5月6日 真山美保作『野盗、風の中を走る』朗読会
- ◆10月23日 八王子市立城山中学校芸術鑑賞会  
●文化庁・芸術家の派遣
- ◆12月8日~11日 『泥かぶら』愛知県刈谷市立全中学校芸術鑑賞会 主催:刈谷市・刈谷市教育委員会
- ◆12月17日 『泥かぶら』佐賀県神埼市立 小・中学校芸術鑑賞会  
●文化庁・学校・地域社会連携型公演
- ◆12月20日 2026年 新制作座クリスマスパーティ

### 出演者スタッフを募集しています

詳しくは劇団webサイトをご覧ください。  
<https://shinseisakuza.com>



— \* 同封の郵便振替の用紙について \* —

### 賛助会費のお願い

令和6年度に皆様から賜りましたご寄付を元に、  
小学校体育館公演を可能にする、新しい舞台セット  
『泥かぶら・S版』を制作することが出来ました。



これからはS版を活かし、小学校公演も頑張って  
まいります。引き続きご理解とご協力を  
してお願い申し上げます。

## News

### テレビ愛媛

### 番組内で『泥かぶら』葦川小学校公演が取材されました

2025年8月6日 戦後80年記念番組  
「亡びるな 生きろ 俳優丸山定夫と桜隊の青春」



テレビ愛媛【公式】YouTube  
<https://www.youtube.com/watch?v=q3rlr8JSI3k>

### 劇団創立75周年記念

### 真山青果・美保演劇研究会 YouTubeチャンネルを開設

新制作座の座付き作家・演出家の真山美保のメッセージを  
次の世代へ届けたい! と思い、公式YouTubeチャンネル  
を開設いたしました。2026年は、真山青果作品の朗読にも  
挑戦いたします。どうぞお聴きください。

[www.youtube.com/@真山家](https://www.youtube.com/@真山家)

### ピアニスト

### 渡邊灯人 出演の演奏会のお知らせ

劇団新制作座で音楽・舞台スタッフをつとめます、渡邊灯人  
です。この度、「副次的文化系器楽祭」という新しい音楽祭の  
企画制作を務めることになりました。

「大人が本気で奏でる音楽の祭典、サブカルチャーを愛する  
者のための文化祭」というコンセプトのもと、専門であるクラ  
シック音楽というジャンルを超えて、ゲーム音楽やアニメ音楽  
等、様々な楽団による多ジャンル演奏会を開催いたします。演  
奏中にはペンライトを振ったり、SNSでオンラインの感想を  
投稿したり等、皆様のご声援を賜りたく存じます。

皆様のご来場をお待ちしております。

2026年8月30日

会場: 多摩市民館 大ホール 入場無料

### 劇団新制作座 衣装部

### 和装文化の【朱鷺-toki-】のお知らせ

### 真山が愛した、昭和を代表する東京友禅 作家の熊谷好博子作「江戸解」コレクションが紹介されました

家庭画報 特選 きものSalon(世界文化社)  
2025年春夏号(116P~127P)

### 受け継がれる「熊谷好博子」の仕事

真山青果賞授賞式など、特別な日に袖を通して  
いた真山の思い出の写真も掲載されています。



小津和知穂(きものSalon 2025年  
春夏号掲載)撮影/森山雅智



熊谷好博子 作

令和8年、和装文化の朱鷺は、日本を訪れる世界の友人のみ  
なさまへ、きもの文化の体験を通じて、愛と平和の相互理解  
のお役に立ちたいと考えております。  
どうぞよろしくお願い申し上げます。